

東京湾環境一斉調査の結果概要について(2019年度)



環境省は2019年度における東京湾環境一斉調査の水質調査・生物調査・環境啓発活動等のイベントの実施のうち、水質調査の結果について取りまとめました。

本調査は、民間企業・市民団体・教育機関・研究機関・地方公共団体等が協働し、モニタリングを実施することにより、国民・流域住民が東京湾再生に関心を持ってもらうことや、東京湾とその関係する河川等の水環境の把握及び汚濁メカニズム等の解明を目的としています。

なお、2008年度から毎年、赤潮、青潮及び貧酸素水塊が発生する夏季に、一斉に東京湾及び流域の河川等において水質調査等を実施しており、今年度で第12回目の実施となりました。

<概要>

1) 調査日

2019年8月7日(水)を基準日とし、基準日を含む数日間を中心に実施

2) 参加機関

民間企業(87社)、市民団体(7団体)、大学・研究機関(5機関)、
地方公共団体(64団体)、国(9機関) 計172機関

3) 調査地点

環境調査地点 : 海域670地点、陸域(河川等)421地点 計1,091地点

4) 水質調査項目

【海域】水温、塩分、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透明度など

【陸域(河川等)】水温、流量、溶存酸素量(DO)、化学的酸素要求量(COD)、透視度など

DOに関する調査では、東京湾奥部西側の底層において、およそ3.0mg/Lを下回る値が検出されました。

CODについては、海域において全体的に東京湾口よりも東京湾奥で高い値を示し、陸域においては、多摩川及び鶴見川流域で、江戸川及び荒川流域と比較して、低い値となっていました。

当社では、河川水等の環境水分析に加え、多くの排水項目の分析についても長年の実績があり、短納期・多検体での対応が可能です。ご不明な点等ありましたら、是非一度ご相談ください。

資料 [2019年11月28日付 環境省報道発表資料](#)

環境検査箇所 武井友宏